

受身形 基本 ヴォイス		直接受身文（他動詞）：非情の受身	間接受身文（自動詞/他動詞）：迷惑受身文 持ち主の受身 主語は有生物が原則。持ち主受身は他動詞の目的語の位置に変化が無い
受身を作る理由:談話レベルの「視点」の統一は大切。		主体が対象に働きかける事態を、働きかけられた対象の視点から述べた文。	
①能動文の動作主を不問にする場合。 長野でオリンピックが開かれた。		直接受身	先生が 学生 を 褒める。 2項 世界的に 学生が 先生 に 褒められる。 2項：項の増減無し 一般的
②影響の受け手のほうが、影響の与え手より身近な場合 弟が知らない人に殴られた。		非情受身	動作主を不問にした用法。非生物が主語となる例外。直接受身の変異種 カラオケ大会が 開かれた。 主催者は不問 この寺は100年前に 建てられた。 建立者は不問。 ※書き言葉では無生物を主語とした受身文が多く用いられる。
③従属節の主語を、主節の主語に統一したい場合。 先生に叱られて、太郎は泣いた。		能動文に関わっていない人を主語とし、人物と事態を主観的に関連付け事態との間接関係を表現	
④迷惑な気持ちを表したい場合。 私は友達におもちゃを壊された。		自動詞でも受身になる、日本語独特の用法。 対応する能動文がない。 日本的な φ 帰宅中に 雨が 降った。 自動詞文 1項 受身文 私は 帰宅中に 雨に 降られた。 間接受身文 2項：項の増減	
1グループ 五段活用	書く 読む 話す	書か れる 読ま れる 話さ れる あれる are-ru	間接受身 迷惑受身=被害の受身「友達に家に来られた」「妻に先立たれた」「弟に電気をつけられた」 間接受身で迷惑でないケースもある。「美人が微笑む」「美人に微笑まれてドキドキした」 他動詞の間接受身もある。
2グループ 一段活用	見る 食べる	見 られる 食べ られる られる rare-ru	φ 誰かが 図書館の本を 借りた 私は 誰かに 図書館の本を 借りられた。
3グループ 不規則活用	来る する	来 られる され る られる rare-ru	間接受身文だが対応する能動文がある。主語に無生物不可で他動詞の目的語の位置が変化しない。
動詞の受身の活用は、全て「下一段活用」になる。		持主受身	
未然	書かれ ない 読まれ ない 見られ ない され ない	書かれ ない 読まれ ない 見られ ない され ない	φ 誰かが 私の足を 踏んだ。 能動文 φ *私の足が 誰かに 踏まれた。 一般ルールの受身=非文：非情物は主語にならない
連用	書かれ ます 読まれ ます 見られ ます され ます	書かれ ます 読まれ ます 見られ ます され ます	私は 誰かに 私の足を 踏まれた。 持ち主の受身 私は 誰かに 財布を 盗まれた。 持ち主の受身
終止	書かれ る 読まれ る 見られ る され る	書かれ る 読まれ る 見られ る され る	マイナス表現：私は部屋でタバコを吸われた。工事車両に道をふさがれた。私は友達に娘をなじられた。 プラス表現：私は友達に服を褒められた。私は母に頭をなでられた。
連体	書かれ る時 読まれ る時 見られ る時 され る時	書かれ る時 読まれ る時 見られ る時 され る時	受身形に似た他動詞を区別すること。 「によって」受身文。作成者/生産者/破壊者の時は「によって」適応 紛れる 憧れる 呆れる 清少納言が枕草子を書いた。枕草子は清少納言によって書かれた。
仮定	書かれ ば 読まれ ば 見られ ば され ば	書かれ ば 読まれ ば 見られ ば され ば	三上章：[能動詞]直接受身が成り立つ他動詞（書く/食べる/する）間接受身になる自動詞（いる/死ぬ/泣く） [所動詞]受身にならない自動詞：意思性のない自動詞（ある/要る/消える/できる）
意向	書かれ よう 読まれ よう 見られ よう され よう	書かれ よう 読まれ よう 見られ よう され よう	
命令	書かれ ろ 読まれ ろ 見られ ろ され ろ	書かれ ろ 読まれ ろ 見られ ろ され ろ	

<p>受身文 = 直接受身 + 間接受身 主語は有生物であるというのが原則。視点の統一に必要となる構文。</p>	
<p>直接受身文 : 他動詞がある受身 : 有生物が主語となる。</p>	<p>間接受身 : 間接的に影響を受ける人が主語。自動詞/他動詞で可能。能動文が無い。</p>
<p>先生が生徒を褒めた。(他動詞文)</p> <p>生徒が先生に褒められた。</p>	<p>雨が降った。(自動詞文)</p> <p>(私は) 雨に降られた。 : 迷惑的意味が発生。</p>
<p>非情の受身 : 直接受身の特殊タイプ。主語に無生物を取る受身のこと</p>	<p>妻に先立たれた。 : 迷惑的意味が発生。</p> <p>友達に家に来られた。 : 迷惑的意味が発生。</p> <p>美人に微笑まれて嬉しかった。 : 迷惑的意味は無い。</p>
<p>オリンピックが開かれた。</p> <p>このお寺は100年前に建てられた</p> <p>パンは麦から作られる。</p> <p>※書き言葉では無生物を主語とした受身文が多く用いられる。</p>	<p>持ち主の受身 : 動作の対照が体の一部や、所有物、内関係の人物。能動文がある。</p>
<p>「によって」受身 : 製作者/破壊者の場合「に」でなく「によって」使う</p>	<p>誰かが、私の足を踏んだ。(他動詞文)</p> <p>*私の足が誰かに踏まれた。(非文) : 主語が無生物は不可</p> <p>私は(誰かに)足を踏まれた。</p> <p>私は(誰かに)財布を盗まれた。</p> <p>私は友人に娘をけなされた。 : 身内迷惑感</p> <p>私は部屋でタバコを吸われた。 : 私のエリア侵害</p> <p>私は友人に服を褒められた。 : 迷惑的意味は無い。</p> <p>※他動詞の目的語の位置が変化しないことに注意。</p> <p>※間接受身が必ず迷惑の意味になるというわけではない。</p>
<p>枕草子は清少納言によって書かれた。</p> <p>この絵はピカソによって描かれた。</p> <p>手段原因の「によって」 「AI によって、多くの仕事が自動化した」</p> <p>よりどころの「によって」 「これまでの慣例によって、催事が行われる」</p> <p>場合の「よって」 「場合によっては、罪に問われないこともある。」</p>	